

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事例概要について】

.....

1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	任務完了後、屋上より階段踊り場に降りる際、笠木上に設置されていた 忍び返しで足を受傷
3. 体験した事例の中心的要素	救助活動終了後、資器材撤収し、階段踊り場に降りるため屋上から梁へ 渡る際に笠木上に設置されている忍び返しに左足踵が引っ掛かり、バラ ンスを崩し着地した際に左足大腿後背部に忍び返しが刺さり受傷したも の
4. 体験した事例の原因・理由	1、任務完了後における全員の撤収時の気の緩み 2 落下危険による忍び返しへの注意力の欠如 3、自身の身体への過信

【体験した事例の直接的な原因について】

.....

1. 体験した事例の直接的な原因	行動の意志決定に問題があった。
------------------	-----------------

【体験した事例について】

.....

1. 発生日時	平成 19 年 1 月 28 日 午後 2 時頃
2. 発生した当時の天候	晴
3. 発生した活動現場	屋外：1 1 階屋上
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷した。
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	軽傷の怪我をしていた（させていた）だろう。
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	その他：屋上から梁に渡る際、笠木上に設置されている忍び返しに突 き刺さる
7. 事例体験時の活動	救助、現場活動終了時、撤収、 []
8. （7の活動中） どのような作業中に発生したか	資機材準備、進入・退出、
9. 同様の体験は、これまでにどの 程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した。

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者A	年齢[39]歳、勤続年数[15]年、現場経験年数[14]年、階級[消防司令補]、同様の活動 [初めて]、任務 [隊員]
○当事者B	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[]、同様の活動 []、任務 []
○当事者C	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[]、同様の活動 []、任務 []
その他 (当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過1	当事者A	救助活動終了、撤収。	
経過2	当事者A	笠木上に設置されていた忍び返しで足を受傷	
経過3			
経過4			
経過5			
経過6			
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			

【その事例発生時の状況について】

.....

○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか？

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

集中力、注意力がなかった。足元の安全が確保できていなかった。たまたま、負傷事故になった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	はい
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

はい：建物構造による進入時と退出時の高低の違いによる、注意力の欠如。

【事故発生後の取り組みについて】

.....

○注意力欠如、焦り等の対策について

- 1、危険箇所への各隊員への徹底、注意喚起。
- 2、身体能力を過信しない。
- 3、任務完了後における、注意力欠如にならぬよう安全監視員を配置。

○装備・資機材の対策について

あて布等による危険箇所の排除

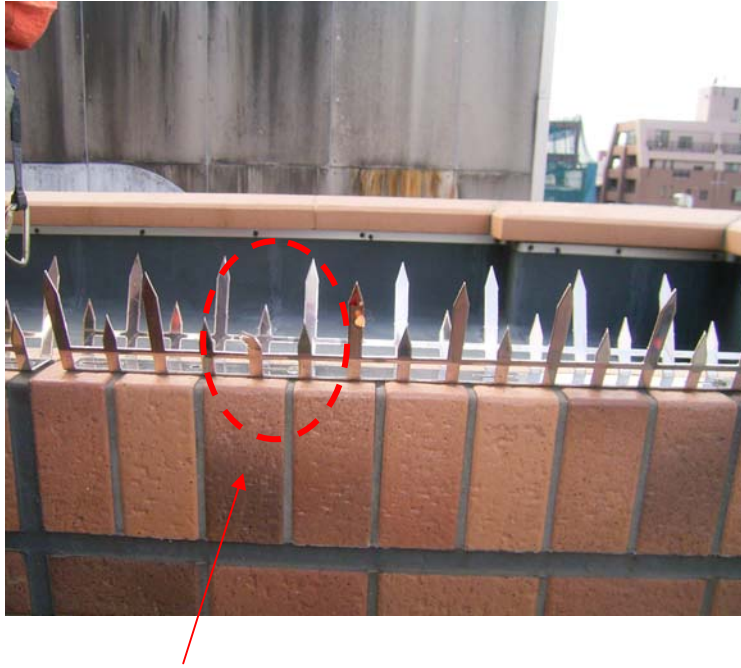
○活動環境の対策について

より安全な退路からの撤収、選択する。

○指揮・情報伝達の対策について

危険箇所を発見又は他により安全に進入退出できる箇所があれば、情報の共有化を図る。

受傷状況写真



受傷した忍びかえしの位置

長さ 7 c m 幅 0 . 5 c m 厚さ 0 . 1 c m



受傷箇所